

2022年12月13日

立教大学国際学術研究交流制度  
2022年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	外国語教育研究センター・准教授
	氏名	松本 旬子
受入学部・研究科・研究所		外国語教育研究センター
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Department of Spanish Language and General Linguistics, Faculty of Philology, Universidad Nacional de Educación a Distancia (UNED) 所属機関所在国：スペイン
	氏名	Alicia San Mateo
招へい期間		2022年11月11日～2022年12月11日（31日間）
研究経費		837,760円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

\*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2022年11月11日	来日
2022年11月14日	共同研究（語彙教材開発の打ち合わせ①）
2022年11月15日	スペイン語授業見学（@立教大学新座キャンパス）
2022年11月17日	研究セミナー①（@立教大学池袋キャンパス太刀川記念館第1・2会議室）「Eficacia de actividades de aprendizaje de vocabulario. Resultados de un estudio con estudiantes japoneses de español como L2.」参加人数：対面7名、オンライン32名、計39名
2022年11月22日	ゲストスピーカーとして講義（@立教大学池袋キャンパス 7202『スペイン語スタンダード3』授業担当者：高山パトリシア）参加人数：対面6名、オンライン2名、計8名
2022年11月25日	スペイン語授業見学（@立教大学池袋キャンパス）
2022年11月26日	東京スペイン語学研究会（CELHT）（@立教大学池袋キャンパス 6205） 「Análisis de errores relacionados con el uso del artículo en

2022年12月2日	español L2. Estudio de corpus de aprendices japoneses.」参加人数：対面7名、オンライン17名、計24名
2022年12月6日	研究セミナー②（@立教大学池袋キャンパス6405）「Desarrollo de la expresión escrita del estudiante de L2. Recursos en línea: diccionarios, corpus, traductores… o El vocabulario y los inventarios léxicos en el <i>Plan curricular del Instituto Cervantes</i> (elaborado según el <i>MCER</i> ): panhispanismos, españolismos y americanismos.」参加人数：参加人数：対面7名、オンライン21名、計28名
2022年12月9日	共同研究（語彙教材開発の打ち合わせ②）
2022年12月9日	研究セミナー③（@立教大学池袋キャンパス太刀川記念館カンファレンスルーム）「Estrategias de aprendizaje de vocabulario en L2, sugerencias metodológicas y criterios de selección léxica.」参加人数：対面13名、オンライン35名、計48名
2022年12月11日	帰国

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

第二言語としてのスペイン語教育の第一人者であるアリシア・サンマテオ教授を本学にお招きできたのは大きな喜びであった。1ヶ月間、学内外向けに研究セミナーを多数行い、精力的に活動していただいた。本学のスペイン語教育のみならず日本のスペイン語教育に、さらに言語を超え、第二言語教育全般に、多くの学びと刺激を与えられた。サンマテオ先生自身も久しぶりの日本滞在を満喫しつつ、充実した時間を過ごすことができたこと非常に満足されておられるのは、光栄である。

それぞれの活動については以下に記すが、研究セミナーも授業もすべてハイブリッド形式で行った。サンマテオ先生のスペイン語の授業を受けた学生らは、その臨場感に大変興奮していた。本学学生との直接のインタラクションは、サンマテオ先生にとっても、学生にとっても良い経験となったようである。研究セミナーについては、サンマテオ先生が来日していたにも関わらず、対面参加者数が多かったとは言えないのが残念だ。しかし、当然ながら参加者側にも都合があり、感染拡大の懸念も払拭しきれてはいない。そのような状況下で、対面参加にこだわらず、ハイブリッド形式という誰でも参加しやすい環境を担保したことは、結果的に空間を超えて大勢の人と知見を分かち合うことを可能にした。日本各地からの参加者、また海外からの参加者もあり、オンラインは盛況であった。またハイブリッド形式で研究セミナーを実施する運営側も非常に鍛えられた。

#### < 共同研究（語彙教材開発） >

立教大学でスペイン語を必修で学ぶ学生を対象（CEFR A1-2 レベル）に語彙帳を作成する。これまでの招聘研究員・受け入れ教員双方の研究・経験から得られた知見に基づき、適切な量の適切な語を適切な時期に提示して、学習者のスペイン語修得の下支えとなる副教材を目

指す。すでに三修社に企画書を送付し、12月7日の社内会議で企画の承認進行が正式に認められているので、今後執筆作業に入っていく。

<授業見学>

池袋・新座両キャンパスのスペイン語の授業（主に必修、担当者は専任・教育講師・兼任講師）を見学し、各教員の授業の様子にコメントをいただいた。授業見学されることに抵抗感を覚える教員もいたことから、直接各教員に対するフィードバックは行わないが、受け入れ教員が主任として内容をまとめ、スペイン語教育研究室室内のFDに活かしていく。具体的には2024年から始動する言語B新カリキュラムにおけるスペイン語教育で、変わるべきなのは教材や教案だけではないことを、教員が自覚する必要がある。教員はどうあるべきなのか、どう教えるべきなのか、という学びにつなげていく。

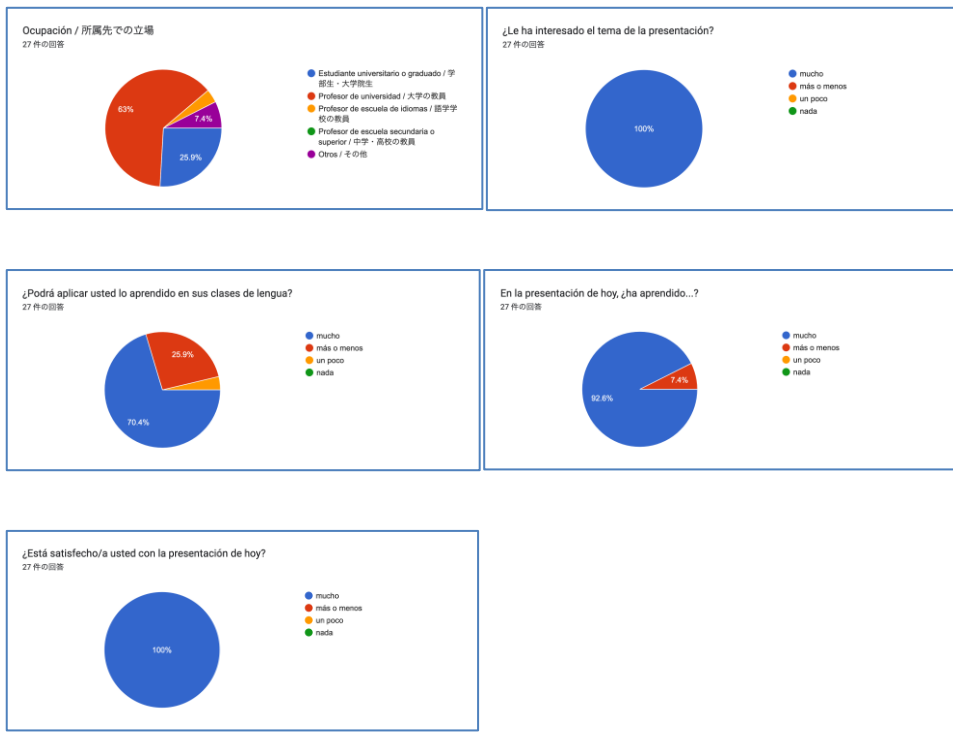
<講義『スペイン語スタンダード3』>

科目担当者がネイティブ教員であることから、普段の授業もスペイン語で行われているが、日本語を解さないサンマテオ先生からスペイン語を学ぶことを学生らが楽しんでいるように見受けられた。もともと履修者数の少ない授業であるので、全員が積極的に発言し、能動的に授業を受けていたのが印象的である。

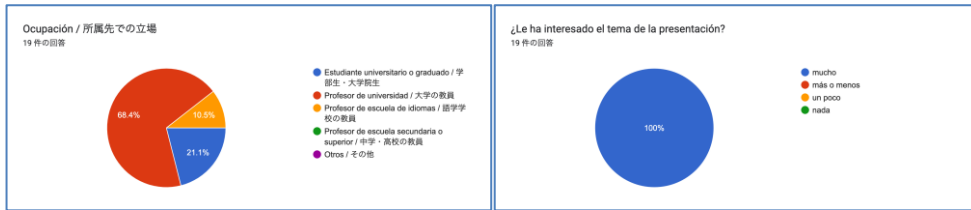
<研究セミナー>

①と②はスペイン語で、③は日本語通訳をつけて開催した。アンケート結果を記す。

①参加者：大学教員 63%，学部生・院生 25.9%，その他 7.4%，語学学校の教員 3.7%



②参加者：大学教員 68.4%，学部生・院生 21.1%，語学学校の教員 10.5%



③参加者：大学教員 62.5%，学部生・院生 20.8%，その他 12.5%，中学・高校の教員 4.2%

